

# 省エネ・快適・健やかに



住生活ジャーナリスト



スマートフォンなどで操作が可能なスマート家電も次第に普及を始めている



HEMSの画面。住宅内のエネルギーの状況がリアルタイムに一目で分かる

たなか・なおき 早稲田大学教育学部卒業。約10年間にわたって住宅業界専門紙・住宅産業新聞社で、主に大手ハウスメーカーを担当、取材活動を行なう。現在はオールアバウト「ハウスメーカー選び」ガイドなどとして活動している。

田中  
直輝

新築住宅の世界では今、「スマートハウス（次世代環境住宅）」が脚光を浴びている。一般的には太陽光発電システムや消費電力など、「エネルギーのマネジメントができる住まい」として認識されているが、将来的には人々の暮らしをより快適に、便利にする住宅へと進化を遂げることが期待されている。その普及はまだ始まったばかり。ここではスマートハウスを軸に現在の住宅市場とこれからの住宅のあり方を検証する。

## IT活用、さらに便利に

ところでもエネルギー関連だけではなく、スマートハウスには居住者の暮らしをより豊かに、便利にする存在になることも期待されている。HEMSにはエコが用いられており、それを活用することでさまざまな展開が可能になる。その一つとして、HEMSが居住者と住宅供給者の窓口になる

こと。現に一部では、住近づきつつある。

このように仕組みをより進化させることで、医療や介護の分野と連携し供するのにHEMSが使われ始めている。このよ

う取り組みを行うことで、住宅を長く安心して利用することが可能になれたHEMSの活用が有望

## 居住者の省エネ意識を刺激 建物自体の性能にも注目

新築住宅の世界では今、「スマートハウス（次世代環境住宅）」が脚光を浴びている。一般的には太陽光発電システムや消費電力など、「エネルギーのマネジメントができる住まい」として認識されているが、将来的には人々の暮らしをより快適に、便利にする住宅へと進化を遂げることが期待されている。その普及はまだ始まったばかり。ここではスマートハウスを軸に現在の住宅市場とこれからの住宅のあり方を検証する。

スマートフォンなどで操作が可能なスマート家電も次第に普及を始めている

スマートハウスの定義は曖昧。一般的には太陽光発電システムと家庭用エネルギー管理システム（HEMS）を搭載した住宅と認識されているようだ。HEMSは電力会社から供給される電力の消費と、太陽光発電システムなどで発電される電力をリアルタイムで把握し、省エネのための行動を取りやすくなる。ハ

ーム（表示）する

でも、建物そのものがエネルギーを大量に消費し、失うようでは省エネ効果が薄れるからだ。そこで今注目されているのが、「ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス（ZEH）」である。壁や開口部（窓やドア）といった建物全体の断熱性を高めつつ、太陽光発電システムなどの創エネアイテム、HEMS、さらには省エネ家電などを組み合わせ、停電時でも電気製品も登場するなど、その活動の幅が広がりつつある。

SLOW & SMART ゆっくり生きてゆく、住まいの先進技術。

HEMSは電力会社の取り組みが活発化したが、同時に「どのくらいの省エネ効果があるのか」という疑問に応えられるアイテムである。一方省エネと同時に、光

全体のエネルギー問題に対する関心が高まり、省エネへの取り組みが活発化したが、同時に「どのくらいの省エネ効果があるのか」という声も聞かれた。東日本大震災とともに、伴う原発事故以降、社会

中には、太陽光発電システムとエネファームによる電力削減にも貢献がある。最近は、HEMS導入で、居住者の省エネ意識が刺激され、HEMSがない住宅に比べ10%ほど省エネ効果が表れるといふ。東日本大震災とそれに伴う原発事故以降、社会

のエネルギーのダメダメ化が、同時に「どのくらいの省エネ効果があるのか」という声も聞かれた。東日本大震災とそれに伴う原発事故以降、社会

のエネルギーのダメダメ化が、